

学外からのeリソース利用のための「どこでもきゅうと (Cute.Anywhere)」サービスの試行

伊東, 栄典
九州大学情報基盤研究開発センター : 准教授 : 情報学

中國, 真教
九州大学情報基盤研究開発センター : 准教授 : 情報学

片岡, 真
九州大学附属図書館 : 職員

轟, 朋子
九州大学附属図書館 : 職員

他

<https://hdl.handle.net/2324/15947>

出版情報 : 九州大学情報統括本部ITマガジン. 2 (2), pp.1-6, 2008-11. 九州大学情報統括本部
バージョン :
権利関係 :

学外からの e リソース利用のための

「どこでもきゅうと (Cute.Anywhere)」サービスの試行

伊東栄典¹， 中國真教¹， 片岡真¹， 香川朋子²， 井上創造²

情報統括本部， 附属図書館

電子ジャーナル等の e リソースを，学外からでも閲覧可能にするためのサービス「どこでもきゅうと／Cute.Anywhere」サービスを平成20年（2008年）9月25日から試行します。このサービスは附属図書館と情報統括本部が連携して構築したものです。附属図書館の Web サイト（<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/>）から「どこでもきゅうと」サービスを利用可能です。



図 1 附属図書館 Web サイトおよび「どこでもきゅうと」

1. e リソースサービスの問題点

大学活動の重要な部分をしめる研究活動では，関連研究の調査やサーベイは必須であり，そのために既に発表された学術論文を調査することが日常的に行われてきました。近年，論文の電子化が進み電子ジャーナルとして利用されるようになっていきます。電子ジャーナルの他にも電子化した電子ブックや学術情報データベースなど，様々な学術情報資源がオンラインで利用できるようになっていきます。これらの電子化された学術情報資源を，九州大学附属図書館では e リソースと総称しています。九州大学附属図書館では全国の大学に先駆けて e リソースの充実化を進めています。平成19年度末には約4万タイトルの電子ジャーナルが閲覧可能になっており，このタイトル数は世界有数の整備状況であると言えます。

電子ジャーナルなどの e リソースにより，論文や学術資料の閲覧場所は図書館以外にも拡張したものの，ネットワーク的な理由から閲覧場所の制約が残っています。現在，e リソースを提供する企業では，利用契約をした大学の構成員へのみ閲覧を許可しており，そのための閲覧制限は多くの場合インターネットの IP アドレスに基づいて行われています。これは，大学はインター

¹ 情報統括本部 {itou, nakakuni, kataoka}@cc.kyushu-u.ac.jp

² 附属図書館 {todoroki, sozo}@lib.kyushu-u.ac.jp

ネットの初期から接続されていたためグローバルアドレスを保有する人が多いことと、構成員のアカウント情報を一元管理する大学が少ないためであろうと考えられます。実際、九州大学附属図書館が契約しているeリソース提供企業でも、九州大学の保有するIPアドレスブロック(133.5.*./16)からのアクセスには情報を提供するように制御している場合がほとんどです。

このようなアクセス制御がなされているため、出張や留学などで九州大学のキャンパス外にいる場合や、自宅に居る場合は、九州大学の構成員であってもeリソースが閲覧できませんでした。そのため、出張先・留学先・自宅など、学外からはeリソースへアクセスできず、十分な学習・研究・調査が行えませんでした。

2. どこでもきゅうと／Cute.Anywhereサービスの構築

2.1 サービスの概要

九州大学が契約しているeリソースを学外からでも閲覧する環境の構築を、附属図書館と情報統括本部が連携して平成19年度から開始しました。具体的には、Webプロキシ機能と、利用者認証機能とを組み合わせた仕組みを構築しています。図2にその概要を示します。

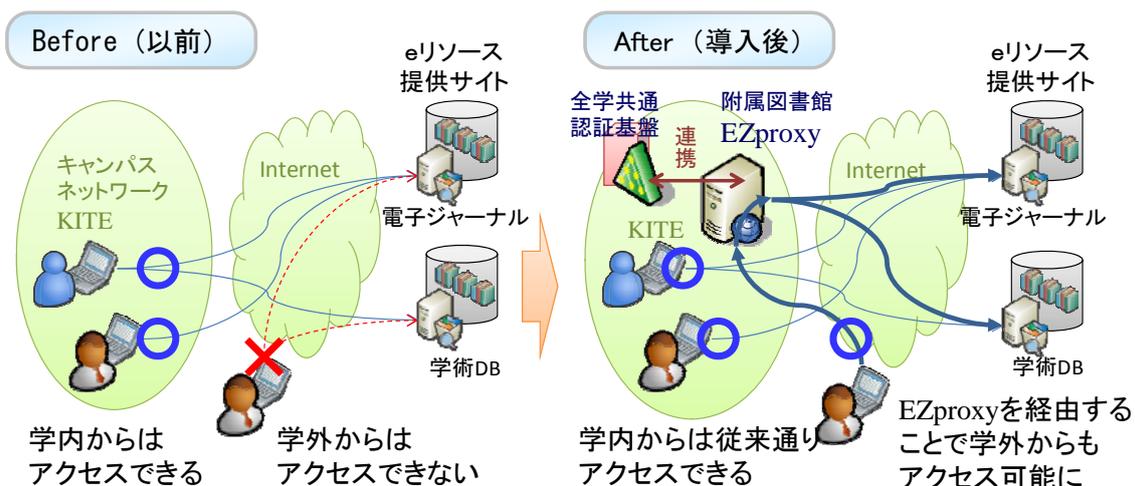


図2:「どこでもきゅうと」サービスの概念図

Webプロキシは、EZproxyと呼ばれるソフトウェアシステムを導入しています[1]。EZproxyは北米の大学図書館を中心に普及しているWebプロキシシステムです。日本でも、名古屋大学[2]や慶應義塾大学[3]等で導入されています。EZproxyは、世界中に利用者がいて、それらが有機的に協力するコミュニティを作っています。

九州大学では、附属図書館がEZproxyソフトを各電子ジャーナル提供サイトとの連携させる設定を行い、同時に学内の方が「どこでもきゅうと」サービスを利用するための入口を附属図書館のWebサイトに整備しています。情報統括本部は、利用者認証の部分を担当しています。情報統括本部では、九州大学の全構成員のアカウント情報を一元的に管理し、かつ利用者認証機能を学内の情報サービスへ提供する全学共通認証サービスを平成19年9月から開始しています[4][5]。学内の教員・職員はSSO-KIDと呼ばれる全学共通IDが配布されていますし、学生・大学院生・研

研究生は学生番号に基づくIDを保有しています。各利用者のIDには対応するパスワードが設定されており、それを用いて利用者認証を行うことができます。

2.2 構築システムの環境

以下の表に、構築したシステムの環境（平成 20 年 9 月 16 日現在）を記載します。

表 1：どこでもきゅうとサービス・システム環境

サーバ	HP ProLiant ML110 G5 CPU: Intel Pentium Dual-Core E2160 (1.80GHz, 1x1MB L2, 800MHz FSB) Memory: 4GB (ECC DDR2 SDRAM 1GB× 4 個)
OS	CentOS 4.6
Proxy	EZproxy 5.0c GA (サーバライセンス)

サービス用に上記のサーバを 2 台用意しています。1 台のサーバを試行サービスに提供し、もう一台は故障時のバックアップ用や OS および Proxy ソフトのバージョンアップの際に更新作業時を行うために用います。

3. 試行サービスについて

3.1 問い合わせ窓口

「どこでもきゅうと」サービスの窓口を表に示します。

表 2：「どこでもきゅうと」サービス窓口

担当	附属図書館・eリソースサポート窓口
電話	箱崎 9 9 - 2 3 3 6 (外線：0 9 2 - 6 4 2 - 2 3 3 6)
Email	esupport@lib.kyushu-u.ac.jp

全学共通 ID の申請や再発行、パスワードの問題については、表 5 の窓口へ問い合わせください。

表 3：全学共通 ID の問合せ窓口

担当	情報統括本部・全学共通認証事業室/ 情報システム部情報基盤課情報管理室
電話	箱崎 (9 9) 7 2 3 4 (外線 0 9 2 - 6 4 2 - 7 2 3 4)
E-Mail	id-room@cc.kyushu-u.ac.jp
Web	http://sso.kyushu-u.ac.jp/

全学共通 ID に対するパスワード変更は、下記のサイトで行えます。

表 4：パスワード変更サイト

教員・職員	https://passchg.kyushu-u.ac.jp/
学生・院生	https://web-passwd.s.kyushu-u.ac.jp/tpass/

3.2 使い方

附属図書館の Web サイト (http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/) にアクセスし、「どこでもきゅうと」のアイコン **どこでも** をクリックしてください。すると、利用者認証サイトへ移ります。利用者認証サイトで、自分の全学共通 ID とパスワードを入力ください。全学共通 ID は教員・職員であれば SSO-KID になります。学生・院生・研究生であれば学生番号に基づく ID になります。

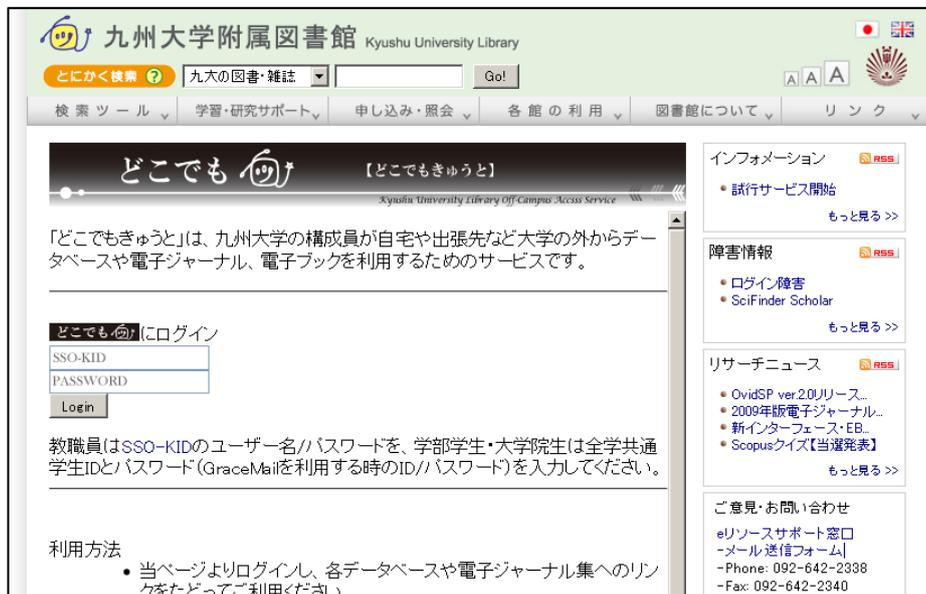


図 3：どこでもきゅうと・利用者認証画面（イメージ）

認証に成功すると、利用可能な e リソース（電子ジャーナル、学術データベースなど）のタイトルが一覧で表示されます。利用を希望するタイトルを選択ください。



図 4：どこでもきゅうと・eリソース選択（イメージ）

また、画面右側には「どこでもきゅうと」のメンテナンスやサービスに関するお知らせ、障害情報、問合せ先の情報が表示されるようになっています。

3.3 注意事項

どこでもきゅうとサービスは、平成20年9月から年度末まで試行サービスとして提供します。試行サービスであるため、サーバの故障やソフトの不具合などでサービスを断りなく停止する場合があります。次年度のサービス継続を約束するものではありませんが、教育研究環境の充実のために、なるべくサービスを継続できるように考えています。

また、論文への大量アクセス・再配布は固く禁止されています。大量アクセスが行われると、eリソースを提供するサーバが自動的に九州大学からのアクセスを停止することがあります。そうすると大学全体の迷惑・不利益となります。論文データの再配布は、契約および著作権から固く禁止されています。大量アクセスや論文データの再配布を行っていることが判明した場合、利用者個人に責任を求める場合があります。

また、「どこでもきゅうと」のページから順にリンクを辿ったものしか、EZproxyの機能が有効となりません。これは、EZproxyが、URL書き換え機能を使ってProxyを有効化しているためです。EZproxyが有効となるサイトは、サーバ側に設定したサイトだけです。これ以外のリンク先サイトはプロキシが無効になるため、学外から閲覧できないサイトも存在します。

4. おわりに

本稿では、学外からeリソースを利用するための「どこでもきゅうと/Cute.Anywhere」サービスについて紹介しました。皆様の研究および教育に役立ててください。WebブラウザとEZproxyサーバの間の通信は、普通のWebで用いられているHTTPおよびHTTPSです。そのため、ほ

とんどのインターネット環境から利用から「どこでもきゅうと」を利用できると思います。学外からのeリソース利用を希望する方は、ぜひ「どこでもきゅうと」をお試してください。

参考文献

- [1] EZproxy : <http://www.oclc.org/us/en/ezproxy/>
- [2] 山本哲也：“学外から電子ジャーナルやデータベースの利用ができます”，名古屋大学情報連携基盤センターニュース，Vol.7, No.2, pp.185-188, 2007.
http://www2.itc.nagoya-u.ac.jp/pub/pdf/pdf/vol07_02/185_188nice01.pdf
- [3] 田邊稔，平吹佳世子：リモートアクセスサービス実現までの経緯と今後の課題，MediaNet No.14, 2007.
<http://www.lib.keio.ac.jp/publication/medianet/article/pdf/01400020.pdf>
- [4] 伊東栄典，全学共通認証事業室：“全学共通認証基盤サービスの紹介 —全学共通 ID 発行，認証機能の提供，およびサーバ証明書の配付—”，九州大学情報統括本部 IT マガジン Vol.2, No.1, 2008.
http://iii.kyushu-u.ac.jp/publish/magazine/ITmag_Vol2No1/zengaku.pdf
- [5] 伊東栄典，全学共通認証事業室：“九州大学全学共通認証基盤と全学共通 ID 「SSO-KID」 の紹介”，情報統括本部 IT マガジン Vol.1, No.2, pp.42-48, 2007.
http://iii.kyushu-u.ac.jp/publish/magazine/ITmag_Vol1No2/SSO-KID.pdf
- [6] SSO ポータル : <https://sso.kyushu-u.ac.jp/>